みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

楽器の分類とデータベースの作成：基幹研究：楽器に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福岡, 正太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00008487

PROJECT

楽器の分類とデータベースの作成

文
福岡正太

基幹研究 ● 楽器に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築（2016-2017 年度）

このプロジェクトは、音楽関連研究機関、研究者および楽器製作者・演奏者らが共同して情報を付与して知識を深めることのできる、楽器資料に関するフォーラム型情報ミュージアムを構築することを目的としている。国立民族学博物館（以下、民博）の音楽展示は、全館の展示新構築プロジェクトの一環で 2010 年 3 月に展示を一新した。その準備段階において、民博の収蔵資料から約 6,000 点弱の楽器関連資料をピックアップし、楽器分類コードと地域・民族分類コードを付与した作業用データベースを作成した。それがこのプロジェクトの基礎となっている。さらに、2 件の大規模な楽器コレクションについて、このシステムを使い、関係者の協力を得て情報を付与することを目指している。

楽器学と楽器分類

楽器学は、音楽学、物理学あるいは音響学、博物館学など、異なる成り立ちをもつ複数の研究分野にかかわっている。また、特定の楽器の復元あるいは改良を目指す研究、世界の楽器を体系的に分類整理する研究、特定社会における楽器の製作と使用に関する民族誌的研究など、多様な目的と手法をもった研究が存在する。そのため、楽器学を紹介することはけして簡単ではない。こうしたなか、楽器学を 1 つの体系をなす学問として打ち出す場となったのは楽器博物館だった。博物館に所蔵された自文化の楽器ばかりでなく異文化の楽器を目の前にして、それらを体系的に位置づけようという努力が楽器学の形成をうながしたのである。

1877 年、ブリュッセルの王立音楽大学に楽器博物館が設立された。この博物館の基礎をなすコレクションの 1 つに、インドの音楽学者スリンドロ・モーハン・タゴールが寄贈したインド各地の楽器約 100 点のコレクションがあった。学芸員であったヴィクトール＝シャルル・マイヨンは、所蔵楽器の目録を作成するにあたり、ヨーロッパの楽器分類で通常用いられる管楽器、弦楽器、打楽器という 3 分類ではなく、自鳴楽器、膜鳴楽器、気鳴楽器、弦鳴楽器の 4 分類を採用した（Mahillon 1978[1880-1922]）。自鳴楽器とは、楽器本体が振動して鳴る楽器、膜鳴楽器は枠や胴に張った革等の振動により鳴る楽器、気鳴楽器は管の中の気柱の振動により鳴る楽器、そして弦鳴楽器は弦の振動により鳴る楽器を指す。この分類は、聖仙バラタの作といわれる古代インドの演劇・舞踊・音楽の理論書『ナーティア・シャーストラ』（成立年代不詳）の分類法に基づいて考案されたものである。マイヨンによる楽器分類法は、比較音楽学者エーリッヒ・フォン・ホルンボステルとクルト・ザックスによりさらに工夫が加えられた。彼らは、自鳴楽器の名称を体鳴楽器と変更し、デューイの十進法による楽器分類コードを考案した（Hornbostel and Sachs 1961）。この分類法は、しばしば彼らのイニシャルをとって HS 法と呼ばれ、今日に至るまで楽器博物館等において用いられており、楽器学の基礎をなしている。

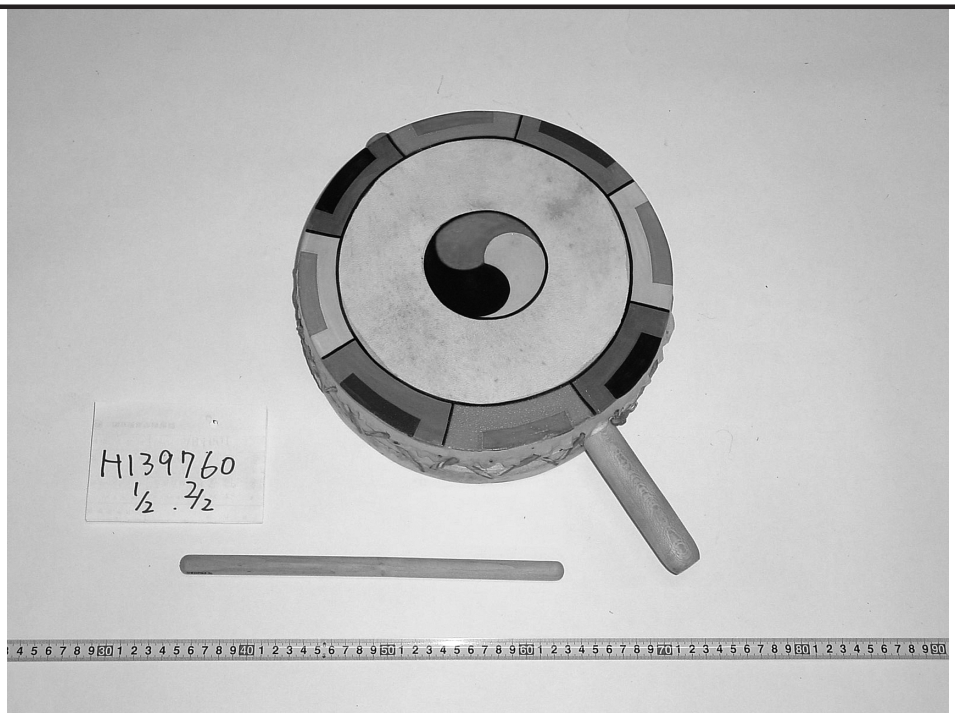
楽器データベース

私たちが 2010 年の展示新構築に際して作成した楽器資料データベースは、民博の標本資料目録データベースの情報に HS 法の楽器分類コードを付したものである。実は、当時、標本資料目録データベースから楽器のみを一括して検索することはできなかった。資料名に「弦楽器」などと入力されていれば、「楽器」というキーワード検索で拾い出すことが可能だが、「太鼓」や「笛」などと入力されている資料はもれてしまう。現地名称がそのまま資料名となっている場合、その楽器の存在を知らなければ検索することができない。そこで、1 点 1 点楽器かどうかを確認していかざるをえなかった。現在の標本資料目録データベースでは、楽器については、イェール大学に本拠をおく HRAF（人間関係地域ファイル協会）による文化項目分類（OCM）コードの 534 が振られており、簡単に楽器を検索することができるようになっている。ただし、この作業は現在進行中であり、まだコードが振られていない楽器資料もある。

211.311 の楽器分類コードをもつ太鼓の例。パキスタンのダフ（民博所蔵）。

楽器分類コードの例をあげてみよう。211.311 というコードは、タンバリンのような太鼓を指している。それぞれの数字は左から順に、膜鳴楽器（2）、打奏（1）、直

接打奏（1）、枠型胴（3）、柄無し（1）、片面（1）を意味している。つまり、前半の 211 は、手やバチ等で直接膜面を打つ太鼓であることを示し、後半の 311 は、枠型の胴の片面に革が張ってあり、持ち手はついていないことを表している。211.322 というコードは、直接膜面を打つ太鼓であることは同じだが、持ち手付きで両面に革が張られていることを示している。民博の標本資料には、もともと HRAF による地域・民族分類（OWC）コードが振られており、楽器資料データベースでは、これに楽器分類コードを加えることで、地域・民族および楽器の種類から、楽器を検索することができるようになった。



211.322 の楽器分類コードをもつ太鼓の例。韓国のソゴ（民博所蔵）。

2 つの楽器コレクション

このプロジェクトでは、すでに民博が所蔵し基本情報がついている楽器だけでなく、未整理の楽器資料にも情報を付与することを試みている。対象としているのは、個人所蔵の 2 つの楽器コレクションで、基本的な情報を付与した時点で民博に寄贈受入提案をおこないたいと考えている。

1 つは、立田雅彦氏（1932-）のコレクションである。立田氏は兵庫県立夢野台高等学校で長年音楽の教師を務めた。若い頃に国際交流事業で韓国や中国、シンガポールを訪問したのをきっかけに、世界の楽器を収集するようになった。多くの留学生を自宅に受け入れ、彼らを通じて収集した楽器も多いという。収集された楽器の総点数は、恐らく 1,000 点以上にのぼると思われる。

もう 1 つは、大西尚明氏（1923-2004）の楽器コレクションである。大西氏は、1950 年代半ば、大阪で全音楽譜出版社に就職、後に独立して全音大阪教育楽器を興し、教育楽器の販売や関連する講習会、イベント等の企画実施に携わった。そのかたわら世界の楽器を収集して、自宅に平城山民族楽器研究所を開設した。こちらも収集された楽器数は相当多数だが、このプロジェクトでは、先に立田氏のコレクションについて情報付与する方針を立てていたため、大西氏のコレクションからは 75 点のみを選んでデータベース化することとした。それ以外の楽器については、楽器を収集する別の博物館が寄贈を受け入れる見込みである。

個人コレクションについては、研究者が現地で調査をおこなって収集した資料と異なり、民族誌的な情報が欠けていることが多い。したがって、民博で民族誌的な資料として受け入れることは難しい。しかし、この 2 つのコレクションは、かなりの量と一定の質を備えており、世界の楽器の多様性や相互の関連について理解を深めることに資する資料である。それゆえ民博が所蔵する楽器関連資料を補う資料として、このプロジェクトで取り上げることとした。

フォーラム型情報ミュージアム

フォーラム型情報ミュージアムとは、現在民博が構築中のフォーラム機能を有するデータベースの集合体である。その 1 つとして楽器データベースを作成し公開する第 1 の意義は、資料情報を広く共有することにある。これまで、民博の 34 万点の標本資料の中から楽器を探し出すのはかなり難しかったが、このプロジェクトによって地域・民族と楽器の種類という 2 つの条件により、比較的簡単に資料を絞り込んで見つけることが可能になる。民博は世界各地で収集された多くの楽器資料を所蔵しているものの、関係者でさえその概要を知ることは難しかった。フォーラム型情報ミュージアムにより、楽器資料データベースを広く公開することで、資料の共同利用を進め、楽器ひいては音楽研究に広く貢献することができるだろう。

第 2 の意義は、資料についての意見交換ができる点にある。民族誌的情報が欠けている資料について、作業に携わる者だけでそれらの情報を埋めていくことは至難の業であるが、その楽器をよく知る関係者の協力を仰げば、そうした情報を得ることも可能である。フォーラム型情報ミュージアム上でそうした関係者の連携を促進することができれば、民博だけでなく、他の博物館や資料館の資料についての議論も進む可能性がある。本プロジェクトを通して、1 人の研究者、1 つの機関だけでは実現できない、楽器に関する知の構築を目指したい。

【参考文献】

Hornbostel, Erich M. von and Curt Sachs 1961 Classification of musical instruments: Translated from the original German by Anthony Baines and Klaus P. Wachsmann. *The Galpin Society Journal* 14: 3-29.（ドイツ語初出は 1914 年）

Mahillon, Victor-Charles 1978 *Catalogue descriptif & analytique du Museé instrumental du Conservatoire royal de musique de Bruxelles,* vols 1-5. Bruxelles: Amis de la musique.（初版は 1880-1922 年）

ふくおか しょうた

国立民族学博物館人類基礎理論研究部准教授。専門は民族音楽学。東南アジア、特にインドネシア、西ジャワの伝統芸能を研究。共著に『民族音楽学 12 の視点』（音楽之友社 2016 年）、『インドネシア芸能への招待──音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版 2010 年）、『芸術は何を超えていくのか？』（東信堂 2009 年）など。